



## 2021年3月期 第2四半期 連結決算概況と通期見通し

# 免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

# 開示の変更点

映像事業の譲渡に伴い、第2四半期より映像事業を非継続事業として開示（国際会計基準）

2020年3月期

2021年3月期第1四半期～第3四半期

2021年3月期第4四半期～



- ✓ 連結業績では、非継続事業からの当期利益（損失）を開示
- ✓ 参考資料として、非継続事業（映像事業）の業績を開示

\* 2020年9月30日、当社が新たに設立する当社の完全子会社（以下、「映像新会社」）に対して、吸収分割により当社の映像事業を承継させ、映像新会社の株式の95%を日本産業パートナーズ株式会社が設立した特別目的会社であるOJホールディングス株式会社に譲渡することに係る最終契約を、2020年9月30日付で同社と締結しました。これに伴い、当第2四半期連結会計期間より、映像事業を非継続事業に分類しております。この結果、当第2四半期連結累計期間の表示形式に合わせ、前第2四半期連結累計期間の要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び関連する要約四半期連結財務諸表注記を一部組替えて表示しております。

## 上期実績および第2四半期実績

- ✓ 売上高： 新型コロナウイルスの影響は続くも、第2四半期は減収幅が縮小
- ✓ 営業利益： 厳しい事業環境においても、販管費の抑制を進め、上期の営業利益率は約10%  
第2四半期の営業利益率は約15%と大幅に改善

## 通期業績見通し

- ✓ 年度末に向けて緩やかに回復基調が継続し、通期で約8%の減収、営業利益は約600億円
- ✓ 回復基調に伴い、事業活動は活発化する前提で必要な費用、投資等を実行する計画  
ただし、今後状況の変化によっては、費用の抑制をさらに強化
- ✓ 映像事業の譲渡関連費用等により、当期損失となる見込みも、配当は安定的な株主還元を継続する観点から年間10円を予定

01

---

**2021年3月期 第2四半期  
連結業績および事業概況**

# 2021年3月期 第2四半期実績 ①連結業績概況

- 1 売上高： 上期は減収も、2Qは減収幅が縮小（為替影響調整後 1Q：▲19%→2Q：▲8%）  
 2 営業利益： 売上の回復と販管費の効率化によって、2Qの収益性は大幅に改善し、上期の営業利益率は約10%、2Qは約15%

第2四半期累計実績（4-9月）

参考数値

第2四半期実績（7-9月）

(単位：億円)	2020年3月期		2021年3月期		前年同期比	為替影響調整後	為替+Covid-19影響調整後**	2020年3月期		2021年3月期		前年同期比	為替影響調整後
売上高	3,684	<b>1</b> 3,165	▲14%	▲13%	▲460億円	1,966	1,799	▲8%	<b>1</b> ▲8%				
売上総利益 (売上総利益率)	2,428 (65.9%)	1,960 (61.9%)	▲19%	▲17%	-	1,303 (66.3%)	1,107 (61.6%)	▲15%	▲13%				
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	1,850 (50.2%)	1,615 (51.0%)	▲13%	▲12%	-	894 (45.5%)	811 (45.1%)	▲9%	▲10%				
その他の収益および費用等	▲20	▲42	-	-	-	▲16	▲30	-	-				
営業利益 (営業利益率)	558 (15.2%)	<b>2</b> 303 (9.6%)	▲46%	▲38%	▲130億円	393 (20.0%)	<b>2</b> 266 (14.8%)	▲32%	▲25%				
税引前利益 (税引前利益率)	535 (14.5%)	283 (9.0%)	-			380 (19.3%)	256 (14.3%)	-					
継続事業からの当期利益 (継続事業からの当期利益率)	410 (11.1%)	259 (8.2%)	▲151億円			305 (15.5%)	261 (14.4%)	▲44億円					
非継続事業からの当期利益 (損失)	▲50	▲486	▲436億円			▲30	▲460	▲430億円					
当期利益(損失)	361	▲227	▲588億円			274	▲199	▲474億円					
親会社の所有者に帰属する当期利益 (損失)	361	▲227	▲588億円			274	▲200	▲474億円					
EPS	27円	▲18円				-	-						

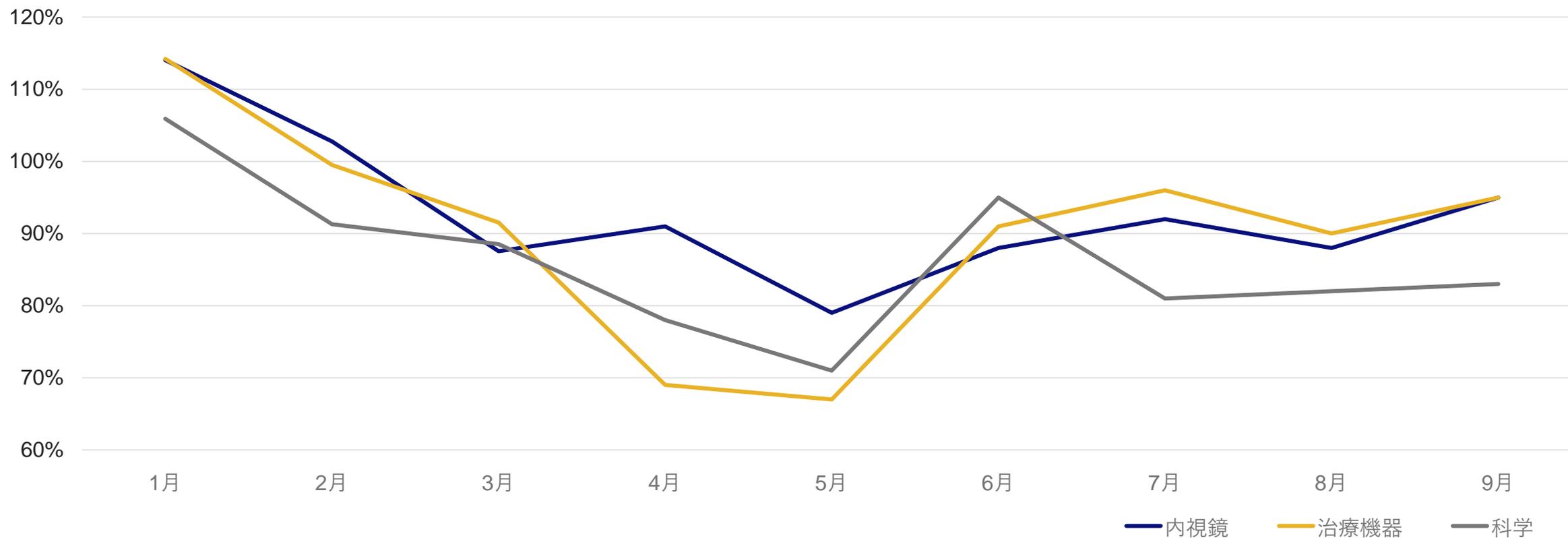
\*継続事業

非継続事業  
継続事業

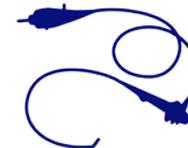
# 1月-9月の状況

## 9月の医療分野は前年並みの水準まで回復

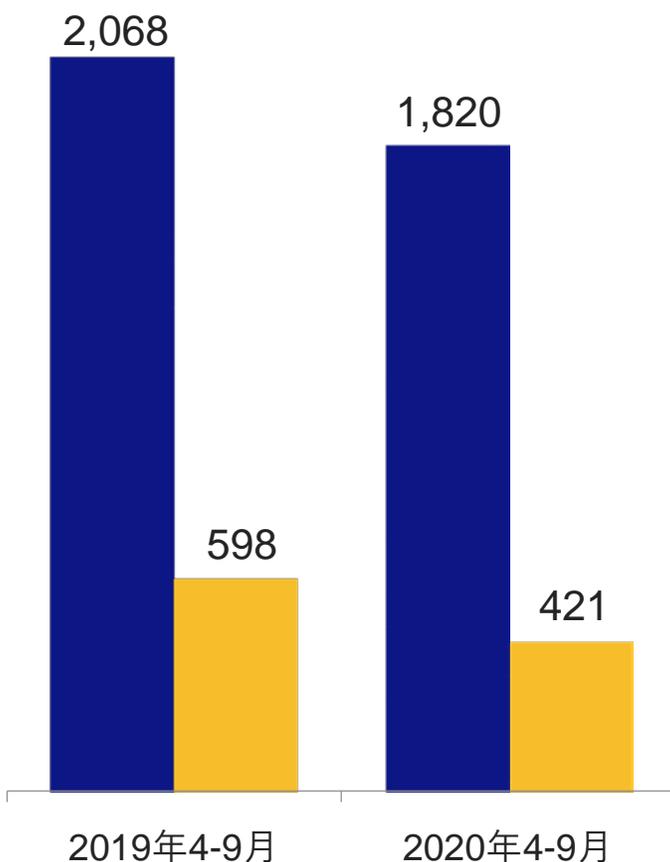
売上高前年同月比\*



# 2021年3月期 第2四半期実績 ②内視鏡事業



■ 売上高 ■ 営業利益  
(億円)



## ✓ 売上高

- 上期：新型コロナウイルスの影響により、減収
- 2Q：欧州が英国・東欧を中心にプラス成長し、1Qから減収率が改善（欧州：為替影響調整後+2%）

## ✓ 営業利益

内視鏡製品の自主回収費用を売上原価に60億円計上するも、販管費の抑制等により、為替影響を除き営業利益率は約24%

第2四半期累計実績（4-9月）

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	2,068	1,820	▲12%	▲10%
営業利益	598	421	▲30%	▲25%
その他の損益*	▲3	▲5	-	-
営業利益率	28.9%	23.1%		24.3%

第2四半期実績（7-9月）

FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
1,114	1,028	▲8%	▲7%
379	274	▲28%	▲23%
▲4	▲2	-	-
34.0%	26.7%		28.2%

\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

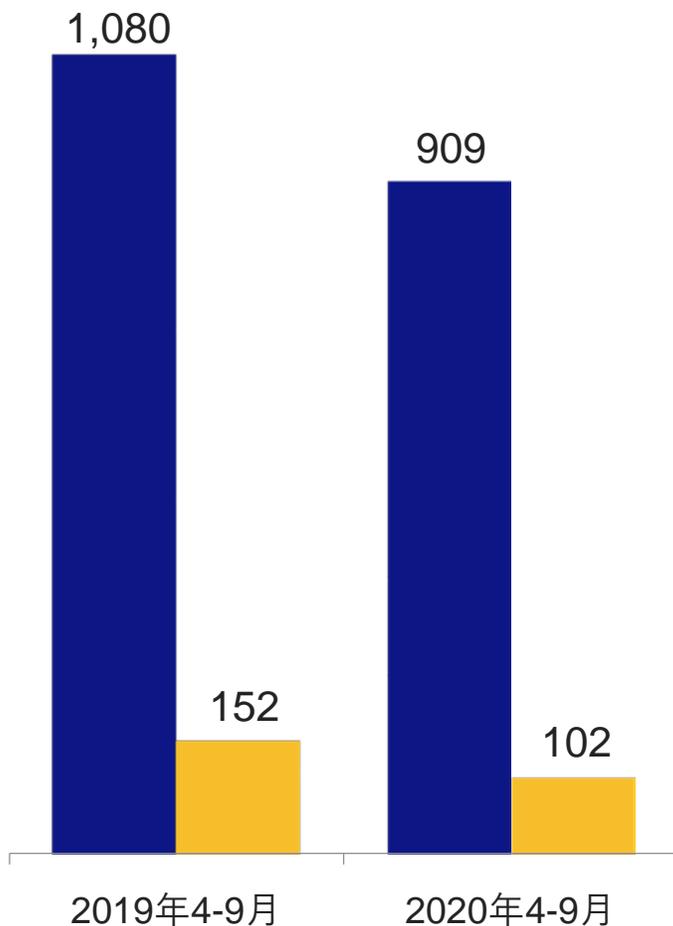
ご参考

	FY2021 1Q	FY2021 2Q
売上高前年同期比	▲17%	▲8%
為替影響調整後	▲14%	▲7%
営業利益率	18.5%	26.7%

# 2021年3月期 第2四半期実績 ③治療機器事業



■ 売上高 ■ 営業利益  
(億円)



## ☑ 売上高

- 上期：新型コロナウイルスの影響により、減収
- 2Q：症例数は回復傾向が続いており、売上高の減少幅は1Qから縮小（為替影響調整後 1Q：▲24%→2Q：▲6%）

## ☑ 営業利益

売上の減少幅の縮小および費用の圧縮の継続により、上期の為替影響を除いた営業利益率は12%を超える実績。2Qの営業利益率は前年を上回る結果

### 第2四半期累計実績（4-9月）

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	1,080	909	▲16%	▲15%
営業利益	152	102	▲33%	▲26%
その他の損益*	▲7	▲4	-	-
営業利益率	14.1%	11.2%		12.3%

\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

### ご参考

	FY2021 1Q	FY2021 2Q
売上高前年同期比	▲27%	▲6%
為替影響調整後	▲24%	▲6%
営業利益率	3.8%	16.6%

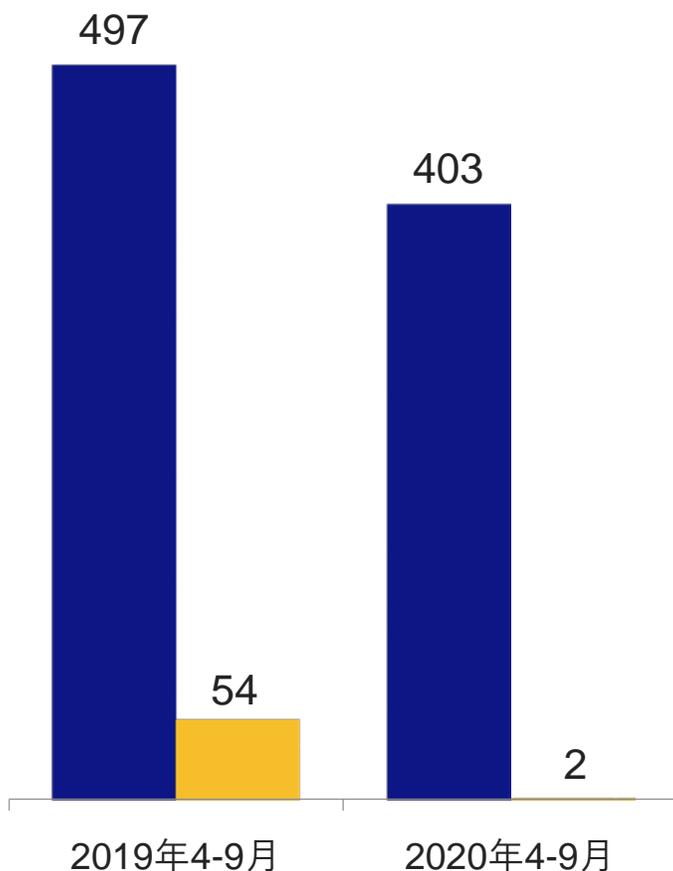
### 第2四半期実績（7-9月）

FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
560	528	▲6%	▲6%
95	88	▲8%	0%
▲6	▲1	-	-
17.1%	16.6%		18.0%

# 2021年3月期 第2四半期実績 ④科学事業



■ 売上高 ■ 営業損益  
(億円)



## ✓ 売上高

■ 上期：中国は電子部品や半導体市場が活況のため好調に推移し、プラス成長を実現したものの、新型コロナウイルスの影響により、減収

## ✓ 営業利益

減収を主要因として、減益。2Qは大幅に収益性が改善し、為替影響を除き営業利益率は10%まで回復

### 第2四半期累計実績 (4-9月)

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	497	403	▲19%	▲17%
営業利益	54	2	▲96%	▲83%
その他の損益*	▲2	0	-	-
営業利益率	10.8%	0.6%		2.2%

### 第2四半期実績 (7-9月)

FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
271	226	▲17%	▲17%
37	18	▲51%	▲39%
▲1	3	-	-
13.8%	8.1%		10.0%

\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

### ご参考

	FY2021 1Q	FY2021 2Q
売上高前年同期比	▲21%	▲17%
為替影響調整後	▲18%	▲17%
営業利益率	-	8.1%

# 財政状態計算書

- ☑ 非継続事業の資産、負債を、売却目的で保有する資産、売却目的で保有する資産に直接関連する負債として記載
- ☑ 新型コロナウイルスの影響を鑑み、安定的な事業運営のため手元流動性を確保

(単位：億円)	2020年3月末	2020年9月末	増減額		2020年3月末	2020年9月末	増減額
流動資産	5,067	5,712	+645	流動負債	3,338	3,036	▲302
棚卸資産	1,676	1,609	▲67	社債及び借入金	810	492	▲318
売却目的で保有する 資産	63	326	+264	売却目的で保有する 資産に直接関連する 負債	42	290	+248
非流動資産	5,090	5,024	▲66	非流動負債	3,099	4,423	+1,324
有形固定資産	2,021	1,998	▲23	社債及び借入金	1,999	3,335	+1,336
無形資産・その他	2,085	2,039	▲46	資本	3,720	3,276	▲444
のれん	983	987	+4	自己資本比率	36.5%	30.4%	▲6.1pt
<b>資産 合計</b>	<b>10,157</b>	<b>10,735</b>	<b>+579</b>	<b>負債及び資本合計</b>	<b>10,157</b>	<b>10,735</b>	<b>+579</b>

有利子負債：3,827（2020年3月末比+1,018）

# 連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF：定期預金400億円の預入を含むため、実質FCFは72億円のプラス
- ☑ 財務CF：長期借入や社債発行による調達により、812億円のプラス

## 第2四半期実績（4-9月）

(単位：億円)

	2020年3月期	2021年3月期	増減
売上高	3,684	3,165	▲519
営業利益	558	303	▲255
営業利益率	15.2%	9.6%	▲5.6pt
営業キャッシュフロー	673	374	▲299
投資キャッシュフロー	▲314	▲702	▲388
フリーキャッシュフロー	359	▲328	▲687
財務キャッシュフロー	▲105	812	+918
現金及び現金同等物期末残高	1,355	2,105	+750

継続事業

非継続事業

# 02

---

## 2021年3月期 通期業績見通し

# 通期見通し ①連結業績

- 1 売上高： 新型コロナウイルスの影響は年度末にかけて緩やかな改善が継続し、約8%の減収を見込む  
 2 営業利益： 販管費の抑制に継続して取り組むことで、営業利益は約600億円を確保

(単位：億円)		2020年3月期 通期実績**	2021年3月期 通期見通し	増減	前年比	為替影響調整後 前年比
* 継続事業	売上高	7,552	1 6,970	▲582	▲8%	▲7%
	売上総利益 (売上総利益率)	4,828 (63.9%)	4,370 (62.7%)	▲458	▲9%	▲8%
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	3,812 (50.5%)	3,660 (52.5%)	▲151	▲4%	▲3%
	その他の収益および費用等	▲94	▲105	-	-	-
	営業利益 (営業利益率)	922 (12.2%)	2 605 (8.7%)	▲317	▲34%	▲31%
	税引前利益 (税引前利益率)	866 (11.5%)	585 (8.4%)			
	継続事業からの当期利益(損失)	606 (8.0%)	475 (6.8%)			
	非継続事業からの当期利益(損失)	▲89	▲530			
	当期利益(損失)	517	▲55			
	親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	517 (6.5%)	▲55 (-)			
EPS	39円	▲4円				

2021年3月期配当  
年間配当10円を予定

## 通期見通し ②セグメント別業績

- 1 内視鏡・治療機器：症例数が回復傾向にあり、約7%の減収を見込む。営業利益率は、ESDは約22%、TSDは約11%
- 2 科学： 下期以降、事業活動は回復傾向となる見通しだが、通期では新型コロナウイルスの影響による減収に伴い、減益
- 3 全社消去： ITインフラやQA/RA機能の強化のための費用を見込む

単位：億円		2020年3月期 通期実績*	2021年3月期 通期見通し	増減	前年比	為替影響調整後 前年比
内視鏡	売上高	4,257	1 3,950	▲307	▲7%	▲6%
	営業利益	1,094	880	▲215	▲20%	▲18%
治療機器	売上高	2,161	1 2,020	▲141	▲7%	▲6%
	営業利益	262	230	▲32	▲12%	▲12%
科学	売上高	1,052	2 930	▲122	▲12%	▲11%
	営業利益	100	35	▲65	▲65%	▲60%
その他	売上高	82	70	▲12	▲15%	▲15%
	営業利益	▲29	▲30	▲1	▲1億円	▲1億円
全社・消去	営業利益	▲505	3 ▲510	▲4	▲4億円	▲5億円
連結合計	売上高	7,552	6,970	▲582	▲8%	▲7%
	営業利益	922	605	▲317	▲34%	▲31%
(参考) 非継続事業	売上高	422	200	▲222	▲53%	▲53%
	営業利益	▲87	▲530	▲443	▲443億円	▲445億円

# 03

---

真のグローバル・メドテックカンパニーへの  
飛躍に向けて

## FY2021

持続的な成長に向けて、真のグローバル・メドテックカンパニーへの転換を加速させる好機



事業ポートフォリオ  
の選択と集中



固定費の  
構造改革



次世代消化器  
内視鏡 EVIS X1の  
確実な市場導入



今後の成長を  
牽引する製品  
開発への着実な  
投資継続



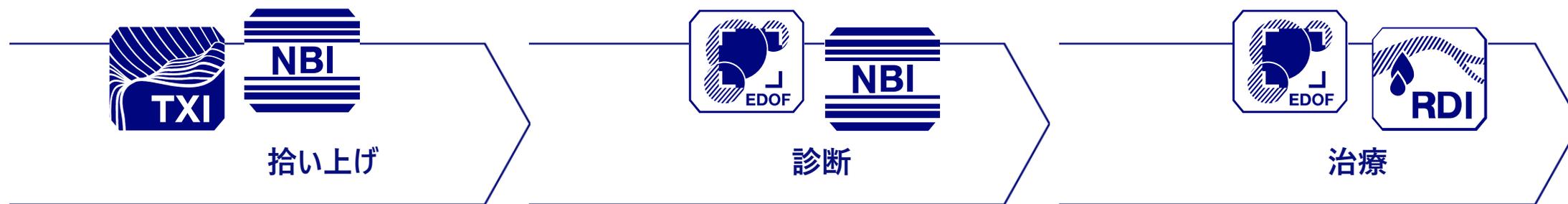
効率的な  
研究開発

### ☑ 上期は着実に施策を実行しており、下期も企業改革を推し進める

- 日本産業パートナーズ株式会社と映像事業の譲渡に関する最終契約を締結
- 次世代消化器内視鏡「EVIS X1」を欧州・アジア一部地域、日本で発売
- 内視鏡CADプラットフォーム「ENDO-AID」を欧州・アジア一部地域で11月初旬から発売
- 整形外科分野の医療機器メーカーであるFH ORTHO社を買収
- 販売体制強化のため、当社グループにおける国内販売機能の再編に向けた検討を開始

# 次世代消化器内視鏡「EVIS X1」に搭載可能なAIを活用したCADを発売

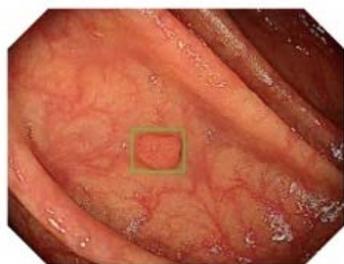
「ENDO-AID」の発売により、拾い上げから治療までの各ステージに革新をもたらす様々な技術を提供  
内視鏡診断・処置の新たなスタンダードとなる内視鏡システム



大腸内視鏡用のAI診断支援アプリケーションを搭載した内視鏡CADプラットフォーム「ENDO-AID」を欧州・アジア一部地域で11月初旬から発売



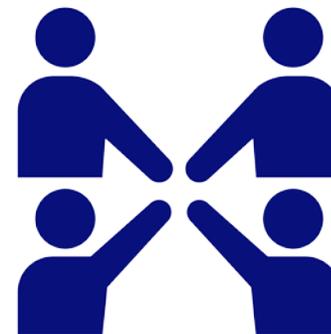
White Light



ENDO-AID CADe  
with marker

ポリープ、がんなどの病変候補を自動的に検出しリアルタイムに表示可能  
70%以上の世界シェアを持つ当社の消化器内視鏡システムとの親和性を生かして、売上拡大を目指す

# 持続的な成長に向けた医療分野における取り組み



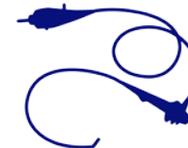
## 整形外科分野の医療機器メーカーである FH ORTHO社を買収

- オリンパステルモバイオマテリアル社\*で展開してきた整形外科分野における製品ポートフォリオの拡充に加え、FH ORTHO社が持つグローバルな販売ルートで販売することで、事業の成長を促進
- また、オリンパスは関節鏡下初の超音波技術を用いた新たな手術装置を開発。今回の買収によるポートフォリオも含めて、整形外科分野の低侵襲手術領域における製品・ソリューションを提供することが可能

## 当社グループにおける国内販売機能の 再編に向けた検討を開始

- オリンパス株式会社とオリンパスメディカルサイエンス販売株式会社の2社が担っている医療、科学事業の国内販売機能を統合予定
- 柔軟な人員配置やパートナーとの連携強化、全国統一の施策の展開や優秀人材の獲得・リテンション等を実現し、販売体制の強化を目指す

# プロダクトパイプライン：内視鏡事業（2020年11月13日時点）



## 経営戦略：内視鏡事業における圧倒的ポジションの強化



リユース内視鏡の競争優位性の堅持  
継続的な技術革新と販売力



シングルユース内視鏡によるポートフォリオ拡充  
リユース内視鏡を補完する製品ラインアップの提供

### Growth driver now

#### 消化器内視鏡

- EVIS LUCERA ELITE（日本、中国）
- EVIS EXERA III（米国、欧州）

#### 外科内視鏡

- VISERA ELITE II（米国、欧州、日本）
- VISERA ELITE（中国）
- VISERA 4K UHD（米国、欧州、日本、中国）

### Just launched / Coming soon

#### 消化器内視鏡

- EVIS X1（欧州、日本）
- 十二指腸内視鏡 TJF-Q190V（米国）
- 内視鏡CAD\*プラットフォーム ENDO-AID（欧州）

### Beyond

#### 消化器内視鏡

- EVIS X1（米国、中国）
- EVIS X1 3D機能
- シングルユース十二指腸内視鏡

#### 外科内視鏡

- VISERA ELITE II（中国）
- 次世代外科内視鏡システム（欧州、日本）

# プロダクトパイプライン：治療機器事業（2020年11月13日時点）



## 経営戦略：治療機器事業への注力と拡大



### 消化器科

既存の製品領域において製品ラインアップを拡充し、関連する領域での成長拡大



### 泌尿器科

前立腺肥大の分野で業界をリードしつつ、製品ラインアップを拡充し、結石処置における競争力を向上



### 呼吸器科

BLVR\*市場をリードしつつ、肺がんの早期診断、処置の分野で成長拡大

## Growth driver now

### 消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

### 泌尿器科

- 前立腺肥大症治療用切除デバイス

### 呼吸器科

- ViziShot

## Just launched / Coming soon

### 消化器科

- 5製品（米国）
- 5製品（欧州）
- 10製品（日本）
- 5製品（中国）

### 泌尿器科

- 前立腺肥大症低侵襲治療デバイス iTind\*\*（米国、欧州）
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System\*\*（米国、欧州）

## Beyond

### 消化器科

- シングルユース胆道鏡

### 泌尿器科

- シングルユース尿管鏡

### 呼吸器科

- シングルユース気管支鏡

**OLYMPUS**

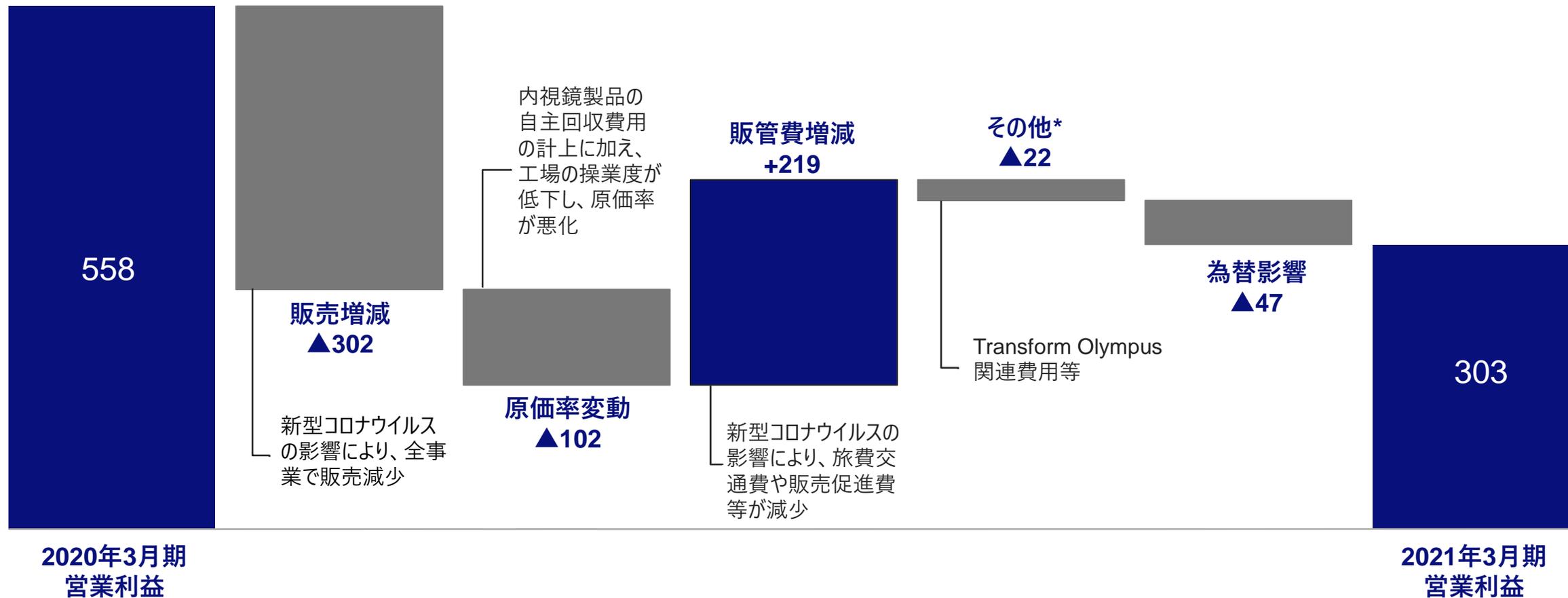
A thick, yellow, brushstroke-style underline that tapers at both ends, positioned directly beneath the word "OLYMPUS".

# 04 Appendix

---

# 参考資料：2021年3月期 第2四半期実績 ①連結営業利益増減要因

第2四半期累計実績（4-9月）



(単位：億円)

# 参考資料：2021年3月期 第2四半期実績 セグメント別概況

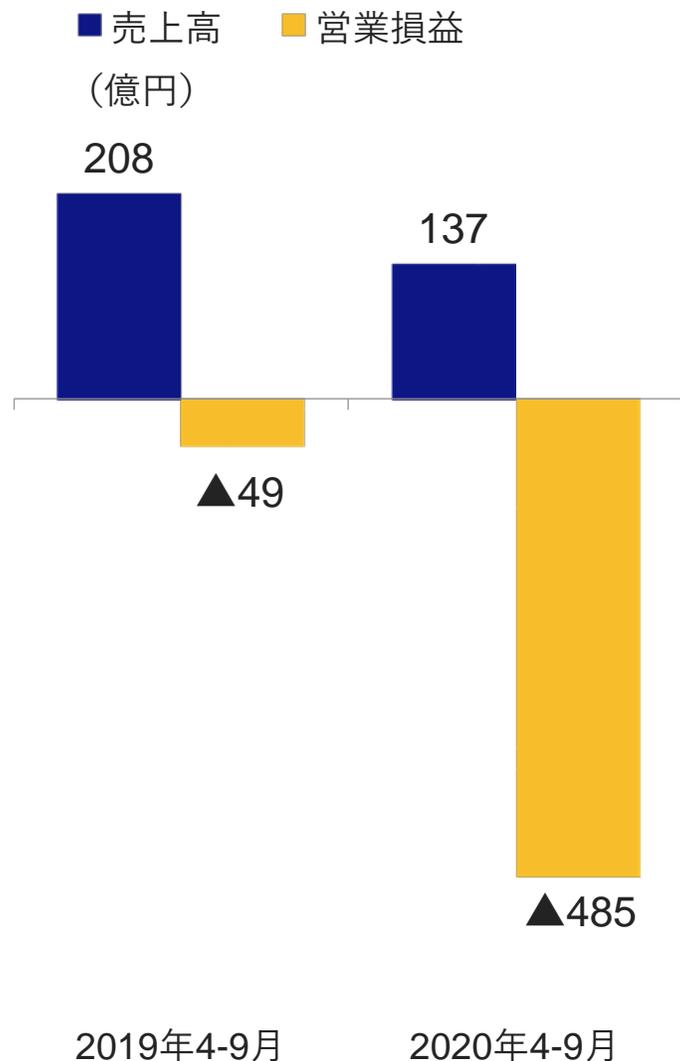
第2四半期累計実績（4-9月）

単位：億円		2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	2,068	1,820	▲12%	▲10%
	営業利益	598	421	▲30%	▲25%
治療機器	売上高	1,080	909	▲16%	▲15%
	営業利益	152	102	▲33%	▲26%
科学	売上高	497	403	▲19%	▲17%
	営業利益	54	2	▲96%	▲83%
その他	売上高	38	32	▲16%	▲16%
	営業利益	▲13	▲10	+4億円	+4億円
全社・消去	営業損益	▲233	▲212	+20億円	+19億円
連結合計	売上高	3,684	3,165	▲14%	▲13%
	営業利益	558	303	▲46%	▲37%
(参考) 非継続事業	売上高	208	137	▲34%	▲33%
	営業損益	▲49	▲485	▲436億円	▲438億円

第2四半期実績（7-9月）

単位：億円		2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	1,114	1,028	▲8%	▲7%
	営業利益	379	274	▲28%	▲23%
治療機器	売上高	560	528	▲6%	▲6%
	営業利益	95	88	▲8%	0%
科学	売上高	271	226	▲17%	▲17%
	営業利益	37	18	▲51%	▲39%
その他	売上高	21	16	▲21%	▲21%
	営業利益	▲7	▲4	+2億円	+2億円
全社・消去	営業損益	▲113	▲110	+3億円	+3億円
連結合計	売上高	1,966	1,799	▲8%	▲8%
	営業利益	393	266	▲32%	▲25%
(参考) 非継続事業	売上高	108	80	▲26%	▲26%
	営業損益	▲31	▲460	▲429億円	▲430億円

# 2021年3月期 第2四半期実績 非継続事業 (映像事業)



- ✓ **売上高** ■ 上期：新型コロナウイルスの影響を大きく受けて、減収
- ✓ **営業損益** ■ 譲渡関連費用437億円により、営業損失を計上

第2四半期累計実績 (4-9月)

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	208	137	▲34%	▲33%
営業損益	▲49	▲485	▲436億円	▲438億円
その他の損益*	▲10	▲439	-	-
営業利益率	-	-	-	-

第2四半期実績 (7-9月)

FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
108	80	▲26%	▲26%
▲31	▲460	▲429億円	▲430億円
▲5	▲436	-	-
-	-	-	-

\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

ご参考

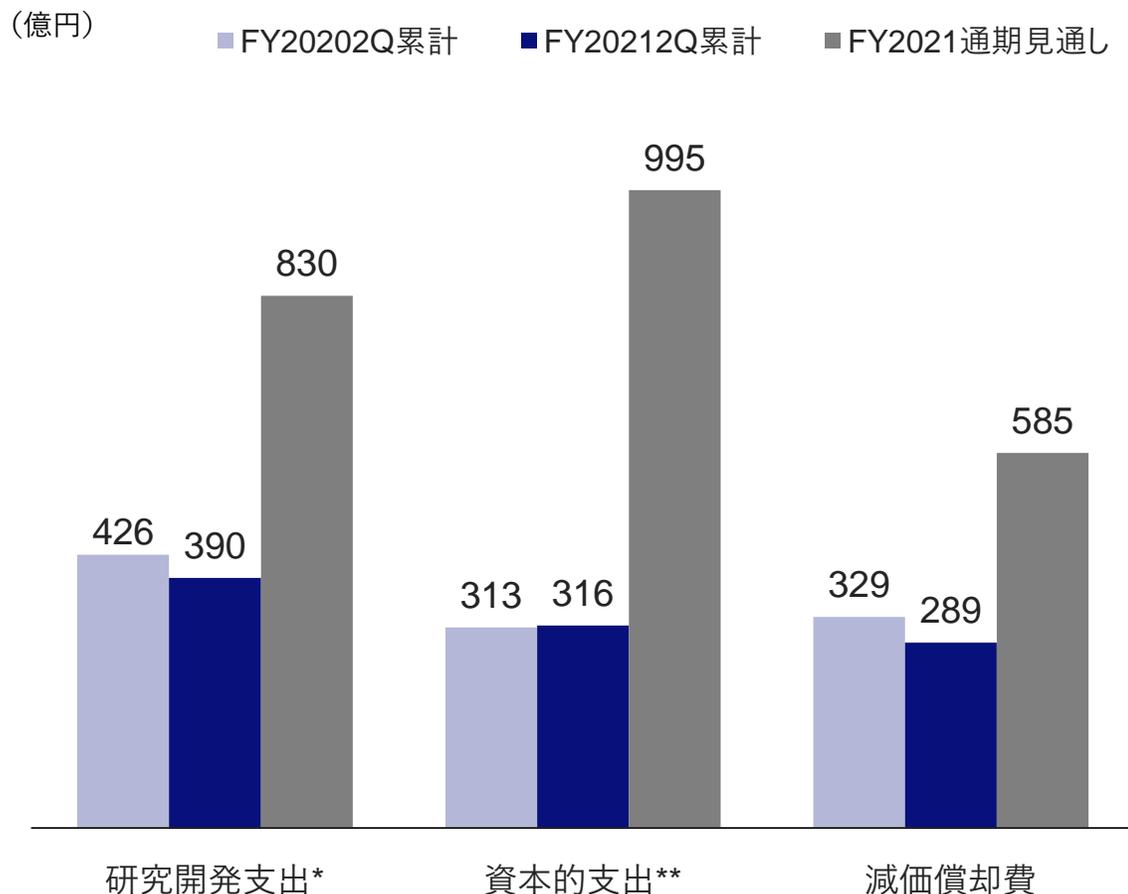
	FY2021 1Q	FY2021 2Q
売上高前年同期比	▲41%	▲26%
為替影響調整後	▲39%	▲26%
営業利益率	-	-

非継続事業のキャッシュフロー 第2四半期実績 (4-9月)

	FY2020	FY2021	増減
営業キャッシュフロー	▲13	▲22	▲9
投資キャッシュフロー	▲15	▲5	+9
財務キャッシュフロー	▲0	▲1	▲0

# 参考資料：投資等

## 第2四半期累計実績（4-9月）および通期見通し



(単位：億円)

	FY2020 2Q累計	FY2021 2Q累計
研究開発支出* (a)	426	390
開発費資産化 (b)	84	74
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	342	316

(単位：億円)

	FY2020 2Q累計	FY2021 2Q累計
償却費	33	39
	2020年6月末	2020年9月末
開発資産残高	492	513

\* 研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています

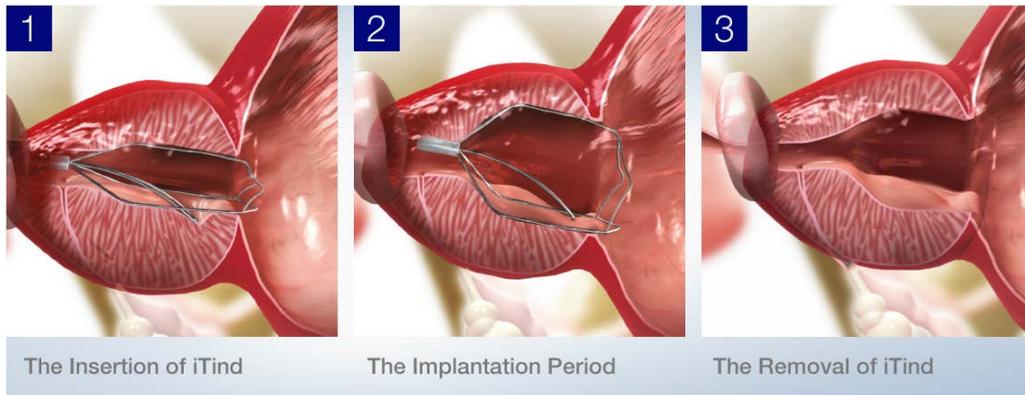
\*\* 資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています

また、2020年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています  
(FY2020 2Q累計：52億円、FY2021 2Q累計：84億円、FY2021 通期見通し：340億円)

# 参考資料：プロダクトパイプライン：泌尿器科新製品



## iTind



### 製品導入の狙い

- 「iTind」は、近年、市場が拡大している非切除前立腺肥大症治療のデバイス
- 患者さんのQOL向上に貢献する治療手技に新たな選択肢を生むと共に、泌尿器分野のポートフォリオを一層充実

### 発売地域

- 米国、欧州

## SOLTIVE SuperPulsed Laser System



SOLTIVE Premium SuperPulsed Laser System (右)  
SOLTIVE Pro SuperPulsed Laser System (左)

### 製品導入の狙い

- 「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」は、主に尿路（腎臓、尿管、膀胱、尿道）に発生した結石をレーザー装置によって細かく破砕して体外に排出するため用いられるもので、トリウムファイバーレーザー技術を利用した製品
- 尿路結石の効率的な破砕により、手術時間の短縮や患者さんの負担軽減に貢献

### 発売地域

- 米国、欧州